

<対話の場>

章節	取り組み名 ※具体的な内容	担当課	対話の場	主に話し合っていたきたいこと (参加者の意見を知りたい部分)	参加対象者	参加者の集め方(3つ)	参加していただく為又は発言しやすくなる為の工夫(3つ)	実績 ※資料が無い場合はおおよそで結構です		参加者満足度 ※担当者所感	次回に向けての改善点 ※担当者意見
								回数			
2-1	地域コミュニティセンター建設経費 ※まちづくりの拠点施設である、地域コミュニティセンターの建設に伴い、その基本プランを話し合うためのワークショップ	生涯学習推進課	ワークショップ	地域の特性や活動を意識した間取り等の基本プラン	建設対象の小学校区内の地域の代表者 ※自治会、婦人会、子ども会、民生委員等	自治会を通じた参加者への呼びかけ	・グループ内で意見を出し合い、各グループでの発表 ・他のグループの案のいいところを見つける ・ワークショップへの職員や設計業者の参加	回数	4回	概ね満足	場合によっては理想と現実の乖離があるので、参加者の意見を汲みしながらも、予算や建築基準の制約で対応出来ないことも途中で助言し理解していただいたうえで、話し合いをしていただく工夫が必要
場所	集会所										
参加者総数	20人										
男女比	ほぼ同率										
年齢構成	比較的高齢										
2-2	消費者団体連絡会補助 ※講演会、イベントなどの啓発活動の企画を行うためのグループヒアリング	消費者センター	グループヒアリング	「買物袋持参キャンペーン」等の各種イベント開催に係る、消費者団体相互の連絡調整と情報交換	・熊本市消費者団体連絡会(5団体)の役員 ・熊本市地域婦人会連絡協議会等主な団体の代表者	・月1回の役員会(定例会)開催時に次回の日程調整している	・市役所駐輪場5階の消費者センター所管の会議室で開催しているため交通の便がよい ・消費者センター所管の会議室を使用するため、参加者の都合に合わせてやすい ・会の進行は、消費者団体の役員がおこなうなど、参加者の主体的な運営に心掛けている	回数	11回	概ね満足	現在の会議運営のやり方で非常にうまくいっているので、「参加していただくためまたは発言しやすくなる為の工夫」に記載する3つのことを継続しておこなっていききたい
場所	消費者センター										
参加者総数	121人										
男女比	女性9割										
年齢構成	40～50歳代 1割 60～70歳代 9割										
3-2	食の安全安心食育推進経費 ※田崎市場体験を通して、食の安全・安心について意見交換し意識啓発を図るためのパブリックミーティング	食品保健課	パブリックミーティング	・体験前後において、食の安全・安心に対する意識の変化(安心感が増すことを期待) ・行政及び事業者(市場関係者)が実施している食の安全・安心確保のための取り組み	・市内にある食品衛生監視員・食品衛生管理者養成コースの大学生 ・市内在住の親子等市民	・市内の対象大学へ参加者の募集を依頼 ・市政だより、市HP、ラジオ及びフェイスブック等の広報媒体を利用して募集 ・各種イベントや市民対象の出前講座などに際してチラシを配布	・残留農薬検査や模擬せり等の体験型イベント、市場内の施設見学を盛り込んだ内容としている ・グループ単位で見学体験してもらい、それぞれ職員を配置し、気軽に質問しやすい環境を整備している ・無記名のアンケートを実施することで、率直な感想などを収集できるようにしている	回数	2回(各1回)	概ね満足	・田崎市場を活用した体験型イベントを1回とし、残り1回を大学生対象の食品衛生監視員体験とし、より専門性の高い内容とする ・配布資料を充実させることで、参加者の理解の促進と意見の醸成を図る
場所	田崎市場										
参加者総数	121人										
男女比	男性:26% 女性:74%										
年齢構成	30歳代未満:67% 30～50歳代:18% 60歳代以上:15%										
7-3	活気あふれる元気な農村地域創造事業 ※農とびあ東門寺地区協議会基本計画を策定するためのグループヒアリング	農業政策課	グループヒアリング	・目標とする地域づくりの方向性 ・地域の課題 ・地域の資源 ・具体的な活動内容	農とびあ協議会会員	・地域の代表者等を通じて関係者に周知	・地域の要望に合わせて夜間に開催(主な参加者は農業者) ・ファシリテーターやアドバイザーとして民間業者を活用 ・市職員も意見交換に参加	回数	4回	満足	進行役が未発言者に発言を促したり、重要なテーマについては一人ずつ全員に意見を述べてもらったりする等、参加者全員に発言していただけるよう工夫する
場所	地域公民館										
参加者総数	35人										
男女比	男性8割										
年齢構成	40歳以上										

章節	取り組み名 ※具体的な内容	担当課	対話の場	主に話し合っていたきたいこと (参加者の意見を知りたい部分)	参加対象者	参加者の集め方(3つ)	参加していただく為又は発言しやすくなる為の工夫(3つ)	実績 ※資料が無い場合はおおよそで結構です		参加者満足度 ※担当者所感	次回に向けての改善点 ※担当者意見
								回数			
8-2	桜町・花畑周辺地区まちづくり推進経費 ※(仮称)花畑広場における市民協働イベントの企画等について意見交換するためのワークショップ	都心活性推進課	ワークショップ	公募による広場利用のアイデアを基に、広場でのイベントの企画及び実践するための話し合いを行った	全市民	・市政だより、HP等での広報 ・中心商店街連合会への周知 ・コンソーシアム熊本をとおして各大学への周知	・アイスブレイクの時間を十分確保し、緊張をほぐした ・様々なテーマに対して班毎に議論を行った ・各班には熊大の大学院生が進行役として議論を進めた	回数	4回	概ね満足	実際に、広場を使ったワークショップの実施など不特定の人が参加できるものにしてゆき、参加者を広げていきたい
場所	市役所4階モニター室										
参加者総数	25人										
男女比	男性7割 女性3割										
年齢構成	10代:8% 20代:28% 30代:48% 40代:8% 50代以上:8%										
Ⅶ-2	市民との直接対話開催経費 ※市民意見を市政、まちづくりに反映するため、市長が直接、市政への意見や地域の課題やニーズを伺うためのパブリックミーティング	広聴課	パブリックミーティング	市政運営方針や施策の推進についての、市民の意見、地域の課題やニーズなど	各区内にお住まいか勤務されている方	・市政だより、HPでの広報 ・町内自治会でチラシの回覧 ・出張所等にチラシを設置	・ネーミングを砕けた雰囲気のものにした(ドンドン語ろう! in〇〇区) ・各区で2回開催(1回目と2回目は会場を変えて実施) ・ご意見を書いていただく用紙を参加者全員に配布	回数	5回	やや不満	開催場所が遠くて参加しにくいとの意見があった。今後は、出張所単位での開催を検討する必要がある
場所	中央公民館 託麻公民館 南部公民館 西部公民館 植木公民館(植木文化センター)										
参加者総数	327人										
男女比	男性8割										
年齢構成	60歳代以上が8割										